

令和6年10月31日

保護者様

エンジェル kids 陽だまり園
園長 藤原 和将

令和6年度 前期自己評価について（お知らせ）

標記につきまして、認定こども園法により、教育及び保育並びに子育て支援事業の状況その他の運営の状況の向上を図る為、保育士自身が自己評価を行い、教育及び保育の計画の展開や教育及び保育の内容等について令和6年4月から令和6年9月までの前期分の評価を終了いたしましたので、別紙のとおりお知らせ致します。

なお、評価結果を踏まえて、教育及び保育課題に取り組む姿勢や体制が確かなものか把握し、保育士一人一人の専門性を向上させ、園内外の研修を充実しキャリアアップを目指す。

【評価の目的】

- ・評価をすることで保育士等の専門性の向上とともにこども園全体の教育・保育の質の向上を図る。
- ・保育者一人一人が、自己の教育・保育を振り返り、基盤となる子どもの理解を深めることで、日々の保育実践の意味を考え、より良い実践へと繋げていく。

【評価のやり方】

- ・保育所保育指針に基づく保育者のための「自己評価チェックリスト」を使用し、第1章から第7章について各々自己評価し平均値を出し全体傾向をグラフに表した。
- ・園の保育計画のもとである、目指す子ども「元気に遊ぶ子」の姿を保育者同士で挙げていき、再確認し共通理解を図り、その後、年間の保育内容を5領域に沿って振り返り、目指す子どもの姿を達成するための次年度の取り組みについて話し合った。

【今回の評価を通して見えたこと】

- ・全体的に見て、第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項が最も低く、次いで、第5章指導計画作成に当たって配慮すべき事項と第6章 研修と自己評価の事項が課題となる。今後、課題の改善に向け、保育者一人一人の質の向上を図るべく、保育所保育指針等の保育の大本となる書物の読み込みならびに、オンライン研修会・外部研修会等の積極的な参加や園内研修を通し、実際の事例を取り入れながら、自己研鑽に努める。また、保育者同士が日々の保育実践における振り返りをその都度、繰り返し行い、保育について話を交わす機会を多く設け、翌日以降の保育に反映される事が必要と思われる。今後も、保育者の気づきを大切にしながら、保育者同士がいつでも、どこでも、意見を交わすことが出来るよう効率よく時間を使用し、更なる園の教育・保育の質の向上に努めていく。

チェックリスト集計				
自己評価対象	チェック項目	項目数	「はい」の数	割合
第1章 総則		67	58	88%
	1 教育及び保育の基本と目標	13	12	92%
	2 特に配慮すべき事項	54	46	87%
	(1) 教育及び保育の配慮	14	13	93%
	(2) 健康支援	20	18	90%
	(3) 食育	11	10	91%
	(4) 特別支援教育・障害児保育	9	4	55%
第2章 子どもの発達		14	13	93%
第3章 「ねらい」及び「内容」		110	91	88%
	1 保育内容「健康」	22	20	91%
	2 保育内容「人間関係」	22	20	91%
	3 保育内容「環境」	22	15	77%
	4 保育内容「言葉」	22	20	95%
	5 保育内容「表現」	22	16	82%
第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項		40	38	50%
	1 乳児期の保育に関する配慮事項	28	23	68%
	2 満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項	12	10	92%
第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項		30	24	87%
第6章 研修と自己評価		15	12	87%
第7章 子育て支援		17	15	88%
	合計	293	247	88%

